

実践例「学校・学級経営の進化・充実」

「課題2 ふるさとで学び、新しい時代を拓く、

開かれた学校・学級経営の構造と推進」

I 学校名 標茶町立虹別小学校【釧路管内】

II 研究の概要

1 研究主題

多様な子どもの可能性をのばす授業づくり

～個別最適な学びと協働的な学びの工夫を通して～ (1/2年次)

2 主題設定の理由

本校では、令和5年度から「道筋を立てて考える子の育成～基礎基本の定着を通して」を研究主題として、一方的な話し方・聞き方を改善し、落ち着いて自分にも相手にもわかるように考える力を育む研究を行った。

その結果、「話や指示を聞く力」「発問に的確に答える力」の高まりについては、最後まで反応しながら聞くことを促す指導の継続により、全学年で「反応しながら聞くこと」の様子が増えた。「考える（自分・ペア・全体に説明）力の高まり」については、自分で考え、説明することについて肯定的に考える児童が高学年に増えた。また、課題となっていた「書くこと・言語事項・数と計算」については日常的に「授業のまとめで扱うこと」、「漢字の読み書き」「計算検定」については全校で定期的に取り組むことにより、改善が見られたという成果があった。

反面本校は、多人数の複式学級編成だけでなく、様々な特性を持った児童の割合が非常に高く、教師は全ての子どもたちに対応した授業に日々苦慮しているという課題が残っている。

そこで、これら「全ての子どもの目標を達成」し、「多様な子どもの可能性を引き出す」ためのより良い授業は、どうあるべきかを研究することが緊急の課題といえる。そのためには、虹別小の児童にあった「個別最適な学び」と「協働的な学び」とは、どのようなものが有効なのかを探り、全校で共有して取り組むことが必要である。

以上の理由から、今年度の研究主題を「多様な子どもの可能性をのばす授業づくり～個別最適な学びと協働的な学びの工夫を通して～」とした。

3 研究内容

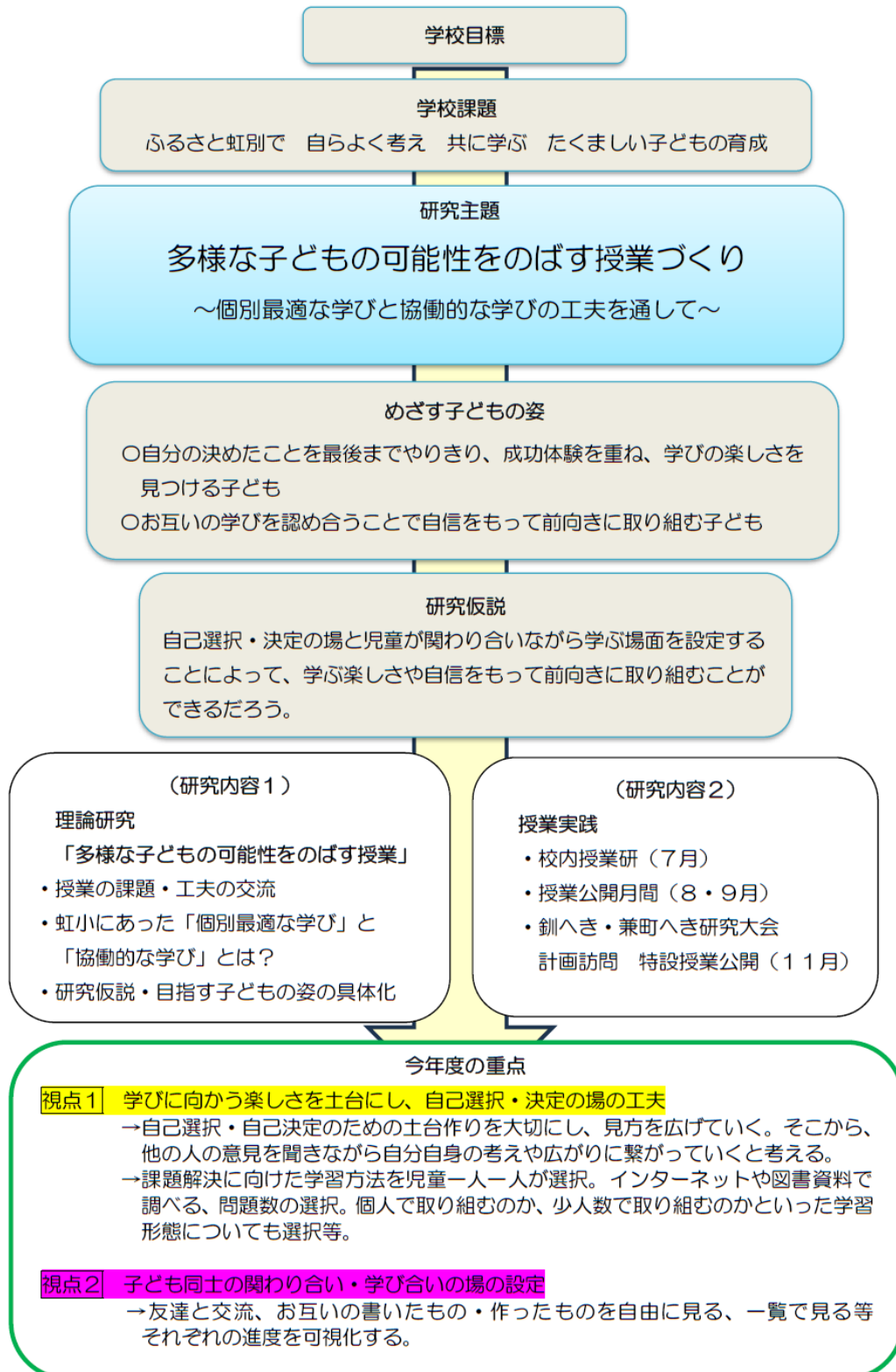
(研究内容1) 理論研究 「多様な子どもの可能性をのばす授業」

- ・授業の課題・工夫の交流
- ・虹小にあった「個別最適な学び」と「協働的な学び」とは？
- ・研究仮説・目指す子どもの姿の具体化

(研究内容2) 授業実践

- ・校内授業研(7月)
- ・授業公開月間(8・9月)
- ・釧へき兼町へき研究大会 計画訪問 特設授業公開(11月)

4 研究全体構造



Ⅲ 実践例

1 第3学年・第4学年による複式授業

①単元名

第3学年 登場人物の性格を考えながら読もう 「モチモチの木」

第4学年 登場人物の気持ちの変化を考えて日記を書こう 「ごんぎつね」

②展開例

6. 本時案

(1) 本時の目標

第3学年（9 / 14時間目）	第4学年（7 / 13時間目）
○齋藤隆介作品について、「モチモチの木」の人物や世界と《比較》しながら、紹介したい本を探して読む。	○《視角の転換》をふまえて、〈ごん〉と〈兵十〉の心情を想像する。 ○人物の言動を異化し、人物の関係をとらえる。

(2) 本時の展開

【第3学年】		【第4学年】	
観	主な学習活動・内容	わたり	観
つかむ	○「モチモチの木」の学習をふり返る。 ・〈豆太〉の人物像 ・〈モチモチの木〉の姿 ・語り手や〈じさま〉の一面的な見方	②②	つかむ
	○教師の働きかけ、 <u>視点</u> 、◇支援、 <u>評価</u> ・前時までの「モチモチの木」の読み取りをふまえた、人物像や世界観の《比較》という《観点》により、深く読み取るための「自己選択・自己決定」ができるようにする。【視点1】 ◇前時までの板書の掲示	間接	
	○「モチモチの木」の学習を、読書メモに記入する。 ・〈豆太〉の人物像 ・〈モチモチの木〉の姿 ・その他、心に残ったこと	③③	
	○教師の働きかけ、 <u>視点</u> 、◇支援、 <u>評価</u> ・学習計画表の掲示、確認により、「自己選択・自己決定」の場を見通して学習できるようにする。【視点1】	間接	
	・机をつなげることにより、自力解決の段階から自然と意見交流へ移行できるようにする。【視点2】 ◇「モチモチの木」の人物像や世界観との比較がしやすい読書メモの準備 ◇座席をつなげて、安心して学習を進めることができるようにしておく。	間接	
	○記入したことのうち、心にのこったことについて、簡潔に交流する。 ○おわりの感想を交流する。 ・時間の関係で、抜粋して紹介したものを交流する。 ○学習計画表の確認 ○本時の課題の確認 「モチモチの木」とくらべながら、齋藤隆介さんの本を読んで、お気に入りの本を選ぼう。	⑤⑤	考える
	・前時での「おわりの感想」の交流により、友だちの見方・考え方のよさが、本時での紹介したい本の選定にも生かせるようにする。【視点2】 ◇学習計画表、紹介カードの掲示 ◇「モチモチの木」おわりの感想を掲載した学級だより	間接	
	○六場面の音読（個別、黙読） ○前半を読み、〈ごん〉の心情を想像する。 ・教科書の叙述から想像できる言葉に線を引き、ワークシートに記入する。	⑤⑤	考える
	◇参考となるワークシートの記入例の準備 ・ワークシートへの記入がある程度終わった子や、困っている子は、間接指導時にも互いの意見交流や教え合いができるようにしておく。【視点2】 ・参考となるワークシートへの記入例を準備しておくことにより、自分の考えと《比較》して、より考えを深めることができるようにす	間接	

	○読書メモを使い方の確認				る。【視点2】		
考 え る	○斎藤隆介さんの本を読み、読書メモに記入する。 ・どんな人物？ ・おもしろかったこと、心に残ったこと ・紹介したいと思える内容だったか、「◎・○・△」の三段階で記録しておく。	・前時までの「モチモチの木」の読み取りをふまえた、人物像や世界観の《比較》という《観点》により、深く読み取るための「自己選択・自己決定」ができるようにする。【視点1】 ◇紹介カードの掲示 ◇「モチモチの木」の人物像や世界観との比較がしやすい読書メモの準備 ◇関連図書（斎藤隆介氏の絵本）コーナーの設置 ◇選書の参考になる掲示物 ○同時間接時に、児童の選書の状況を確認し、本の選び方、メモの取り方など、必要な支援を行う。	間 接 ④	直 接 ④		○想像した〈ごん〉の心情を交流、確認する。 ・「その」「も」の意味 ○語り手の視点の確認 ・前半は〈ごん〉、後半は〈兵十〉 →《視角の転換》	交 流 す る
			同 時 間 接 ⑩	同 時 間 接 ⑩	◇参考となるワークシートの記入例の準備 ・間接指導時にも互いの意見交流や教え合いができるようにしておく。 【視点2】 ・参考となるワークシートへの記入例を準備しておくこと。【視点2】	○後半を読み、〈兵十〉の心情を想像する。 ○〈ごん〉の様子から心情が想像できるところを根拠に、〈兵十〉と〈ごん〉の関係についても考える。 ・教科書の叙述から想像できる言葉に線を引き、ワークシートに記入する。 ・特に、言葉の使い方から分かることに着目する。	考 え る
			間 接 ⑥	直 接 ⑥	【評価】 〈ごん〉と〈兵十〉の心情や人物の関係について、人物の言動や《視角の転換》をふまえて考えている。（ワークシート・発言）	○想像した〈兵十〉と〈ごん〉の心情を交流する。 ・〈兵十〉を見て、どう思うか。 ・〈兵十〉や〈ごん〉に、何と言っておきたいか。 ○〈ごん〉と〈兵十〉の関係を整理する。 ・ようやく通じ合えたこと。 ・死をもってしか通じ合えなかったこと。	交 流 す る
			同 時 間 接 ⑤	同 時 間 接 ⑤	◇参考となるワークシートの記入例の準備 ・間接指導時にも互いの意見交流や教え合いができるようにしておく。 【視点2】 ・参考となるワークシートへの記入例を準備しておくこと。【視点2】	○「青いけむり」の描写から見える語り手の思いと、読者としての思いを、ワークシートにまとめる。 ・「青」のイメージ ・「けむり」のイメージ	考 え る
			間 接 ⑤	直 接 ⑤		○語り手にとっての「青いけむり」の思いを確認する。 ○読者として「青いけむり」を見た思いを交流する。 ○六場面の人物の関係や世界をまとめる。 ようやく通じ合えた。 でも、死ぬことでしか通じ合えない関係。 悲しい世界。	交 流 す る ・ ま と め る
交 流 す る	○読書メモに「◎」をつけた本について交流する。 ・次時の選書の参考にできるように、簡潔に心に残ったことなどを伝え合う。 ○次時以降の学習内容を確認し、見通しを持つ。	◇学習計画表の掲示 【評価】 前時までの「モチモチの木」の読み取りをふり取りながら、紹介したい本を選んでいる。（読書メモ、発言等）	直 接 ④	間 接 ④		○六場面の〈ごん〉と〈兵十〉を見て感じたことをワークシートに記入する。	ま と め る

③成果と課題

【成果】

- ・個人思考をしていたことがグループ、全体として共有することができていた。
- ・学習の足跡が掲示されていて、子ども達が学習の見通しを持つことができた。
- ・ロイロなどの活用で、書く量も減らしつつ、子ども同士の考えの交流も深められる。

【課題】

- ・モチモチの木との関連をしていたが、ボリュームが多く感じた。目標、目的の内容の精査が必要だったのではないかな。交流の時間がもっとあってもよかった。
- ・グループ活動の目的が子どもたちに伝わると、必要感を感じられる。
- ・今後に向けて、見通しを持たせたり、サポートしたりしていく工夫があるとよい。